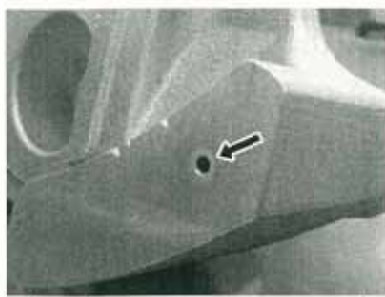


鋳造で複雑な空洞成型

サトキン コスト減・納期短縮

アルミ部品



サトキンの鋳ぐるみ技術を使えば、内部で曲がっている穴(天印)をあけられる

非鉄金属の鋳造を手掛けるサトキン(群馬県高崎市、大塚康幸社長)は、内部に曲がりくねった穴があいた複雑な形状のアルミニウム部品を鋳造で成型する技術を開発した。鋳型にアルミ製のパイプをはめ込んでおき、そこに溶けたアルミを流し込んで「穴あき部品」を造る。従来の手法に比べてコストが安く納期も短縮できるため、自動車の油圧システム部品などの活用を見込んでいる。

サトキンはパイプを固定した鋳型に溶けた金属を流し込む「鋳ぐるみ」技術を改良した。鋳型にアルミを流し込む際、温度や注入速度、流し込む場所などを調整して、鋳型を重ね、きれいに成型するノウハウを確立した。部品に何層も曲がった穴を開ける場合、成型後にドリルで加工することは難しい。アルミパイプを使った鋳ぐるみは、流し込むアルミの温度が高すぎるとパイプが溶けてしまい、温度が低いと途中で固まってうまく成型できない課題があった。パイプが溶けないよう

に、従来はパイプのまわりに特殊な被膜をかぶせて、温度を伝わりにくく

する方法が一般的。この場合、鋳造後にパイプと周囲のアルミの間にすき間ができやすく、被膜処理するコストや時間も必要だった。

アルミより融点が高いステンレス製パイプを使用する方法もあるが、異なる素材を使うため使用後のリサイクルが難しくなる

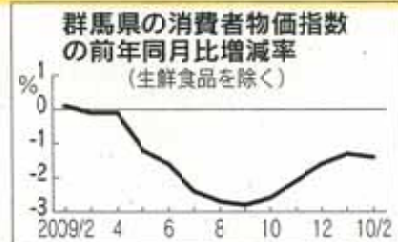
問題があった。サトキンが実用化した手法を使えば、パイプに被膜をかぶせる方法に比べて生産コストを約3%削減し、納期も3日程度短縮できるという。既に自動車部品メーカーからブレーキ部品を受注して、生産を始めた。このほかにも自動車の油圧閥

係部品での需要を見込んでおり、3年後をめどに年間1600万円の販売を目指す。

非鉄金属の機械部品は近年、中国製品の割合が高まりつつある。サトキンは独自技術を開発することで海外の工場と差別性を高めるため、衆院選の新人候補を公募で選ぶ

消費者物価指数 12カ月連続マイナス

県内2月 下落率は縮小傾向



群馬県がまとめた2月の消費者物価指数(CPI)は、前年を下回るのは12カ月連続。指数が下がったのは10月のうち7費目。光熱費を除いた総合指数が98・9となり、前年同月の比で1・4%下落した。光熱費や家具・家事用品などの落ち込みが影響している。下落率は09年9月の2・8%をピークに縮小傾向にあるが、

初の一イースターイベントを開催 TDL、きょうからオリエンタルランドは1日から、東京ディズニーランド(三葉県浦安市)で「イースター(復活祭)」をテーマにした

初の一イースターイベントを開催 TDL、きょうからオリエンタルランドは1日から、東京ディズニーランド(三葉県浦安市)で「イースター(復活祭)」をテーマにした

を配置するのは珍しい。展覧会場を提供することで、のどるま地域の特産品の職人を支援する狙いがある。

前橋駅起点に街づくりを

市内の駅前健康・教育機能を協議会提言



前橋市内の経営者らで構成する前橋街づくり協議会(会長板垣忍・板垣信)が提言する「交流と発信を軸とした街づくり」をまとめた。市などに提出した。JR前橋駅前イートヨーカドー前橋店が8月中旬にも閉店するなど市街地の空洞化が進んでいる。駅前に健康や教育などの機能を果たすことで、駅を中心に歩き回れる街づくりなどを提案した。

協議会はヨーカ堂店舗が閉店する可能性を踏まえ提案をまとめた。郊外型ショッピングセンターなどが林立する中で駅前を物販だけで再生するのは難しいと考へ、医療モールなどの健康、生涯学習などの教育機能を設けることなどを挙げた。駅前から路線バスへ乗るときの案内や待合スペースが貧弱だと、

周辺ビルなどに待合所写真やイメージを設置し、案内表示システムを充実すべきだとした。駅近くには北側に延びるけやき並木通りや「糸の町」の面影を残すレンガ倉庫などがありながら、現状では生かされていない。そこで駅前を起点にして食や歴史などをテーマにした周遊コースを設け、人が駅から街中へ流れる仕組みを持たせることが重要と指摘した。

同協議会は今後、前橋市と協力しながら提言を実際の街づくりに生かしたい考えだ。

経済産業省が31日発表した2009年の工場立地動向調査によると、群馬県内の立地件数は47件で、08年に比べて36件減少した。前年実績を下回

ホテル「ウェスティンナ」の自治体で有効なわけではない」と語る。とくに大都市では実情に応じた対策が求められる。1人1日当たりのごみ(一般廃棄物)の排出量は人口10万人未満の市町村の多くが500g以下で、人口50万人以上だと大半が1gを上回る。消費が活発な飲食店などから出る紙やプラスチック類に加え、生ごみが多いためだ。

その生ごみ処理を事業化しようという試みが、名古屋市で進行中だ。「おかえりやさいプロジェクト」。市民やお店などが生ごみを堆肥化業者に持ち込み、肥料にしてもらう。その堆肥で農家が野菜をつくり、お店で販売する仕組み。

プロジェクトには高級

エコタウンを目指して

徳島・上勝町で34分別



ごみ34分別は全国最多(徳島県上勝町)

み処理機を購入する際、町が5万円を補助。処理機の普及率は100%に近い。過疎の町にとって焼却炉の建設や維持に多額の費用をかける余裕がないから、住民の協力で

2001年に分別を始め、2009年に分別を始めた当初こそ、住民は戸ごみ政策を担当するゼロ・ウェイストアカデミーの藤井園吉事務局長は

資源循環 事業化の動きも

海外からも注目 今夏には中国・四川省に担当者派遣、ごみ分別を指導する。今や国内にとどまらず海外からも注目を集める。

ただ1年以上過ぎた今も取り扱う小売りやホテルは3社とまじり。市はおかえりやさいをブランド化して市民への浸透をめざすが、循環の輪が広がるかどうかはこれから

環境省によると、最終処分場の残余容量は1998年度以降減少の一途。どの市町村にとっても削減は待たない。状況だが、個人の生活様式や経済情勢にかかわらず、削減の取り組みを続けるのは容易でない。

洋大の山谷修作教授の調査では、ごみの回収を有料化した市の約24%で2年目以降、有料化前に比べてごみ量が増える「リバウンド」現象があった。山谷教授は「持続的にごみを減量する工夫が必要

県内工場立地36件減

09年 設備投資抑制が響く

東日本旅客鉄道(JR東日本)の子会社が経営するホテルメトロポリタン高崎(群馬県高崎市)は31日、1階のエレベーターホールに12個のだるまを並べた写真。洋風ホテルにだるま

を配置するのは珍しい。展覧会場を提供することで、のどるま地域の特産品の職人を支援する狙いがある。

だるまは群馬県産(だるま)の職人が製作した。一般的に赤いだるまに加えて、モカ月にワンピース衣装で楽器を抱え、今後はた姿を描く「オーケストラ

を配置するのは珍しい。展覧会場を提供することで、のどるま地域の特産品の職人を支援する狙いがある。

だるまは群馬県産(だるま)の職人が製作した。一般的に赤いだるまに加えて、モカ月にワンピース衣装で楽器を抱え、今後はた姿を描く「オーケストラ

群馬

前橋027-223-3111

TBSテレビ